

<教育長だより 79号 枇差岳朝日に映えて 令和8年1月21日>



ますたろう
11代渡邊萬寿太郎当主（元村長）が、激動の昭和の中で、村への鉄道敷設（米坂線）、教育（関谷学園・公民館設置）、医療（病院開設）をはじめ、産業の改革に身を削り、村の振興に尽くした人であるのは衆知の事実です。それゆえに国・県や村も財政が厳しい中にあっても、国の宝である渡邊邸の価値を認め、（公財）渡邊家保存会への支援を続けてきたのでしょう。

昨日、コロナ禍以降数年ぶりに開かれた「米沢街道地域づくり検討会」の新春懇談会（参加22名）に招かれました。2010年発足以来、渡邊邸をはじめとする村の歴史と文化遺産を活かしたまちづくりと、街道沿いの環境整備のために手弁当で活動を続けている皆さん。そこには変わることのない情熱と愛郷心が溢れています。資料には、以下のことが書かれてあります。

- 1 米沢との交流（越後米沢街道十三峠、戊辰戦争と関川村の現地視察）
- 2 越後米沢街道、関川村内の三峠（鷹ノ巣峠・えのき峠・大里峠）の案内標識設置
- 3 道の駅周辺での花壇づくり（含む除草）
- 4 お野立公園西側村有地の植樹活動 荒川峡芍薬園の整美

のりお
代表の米野紀男さんは、「会員もずいぶん高齢になりました」と笑顔で話されます。会の活動は子どもたちや若い人たちに、みんなで一緒に物事を成し遂げること、自分たちの村を自分たちの手でよりよくすること、ふるさとをいつまでも愛し、学び続けることの大切さを教えてくれます。

後に続く未来の子らのために、小さくてもキラリと光る村づくりを推進する会員の皆様に心から感謝申し上げます。寒風ではありましたが、心の中まで温まる新春の宴でした。

<【写真】旧米沢街道に面する冬の渡邊邸>

※ 教育長だよりは、関川村ホームページ（新着情報）からもご覧いただけます。